

敬悼録

三〇〇四年(平成十六)一月
 五日 西辰川一
 三日 廣島市南区
 二日 江原市
 一日 長門郡木町
 九日 郷土会
 八日 清水一

三〇〇四年(平成十六)一月
 三〇日 西谷町
 二九日 東辰川町
 二八日 西片山町
 二七日 西三ツ子町
 二六日 西三ツ子町
 二五日 西三ツ子町
 二四日 西三ツ子町
 二三日 西三ツ子町
 二二日 西三ツ子町
 二一日 西三ツ子町
 二〇日 西三ツ子町
 一九日 西三ツ子町
 一八日 西三ツ子町
 一七日 西三ツ子町
 一六日 西三ツ子町
 一五日 西三ツ子町
 一四日 西三ツ子町
 一三日 西三ツ子町
 一二日 西三ツ子町
 一一日 西三ツ子町
 一〇日 西三ツ子町
 九日 西三ツ子町
 八日 西三ツ子町
 七日 西三ツ子町
 六日 西三ツ子町
 五日 西三ツ子町
 四日 西三ツ子町
 三日 西三ツ子町
 二日 西三ツ子町
 一日 西三ツ子町

飯島 九歳
 圓石 八歳
 青井 七歳
 梶山 八歳
 杉本 八歳
 野木 八歳
 清美 八歳
 子工 八歳
 博工 八歳
 絹江 八歳
 実江 八歳

十月
 三〇日 宇野高
 二九日 中谷高
 二八日 佐木高
 二七日 阿木高
 二六日 阿木高
 二五日 阿木高
 二四日 阿木高
 二三日 阿木高
 二二日 阿木高
 二一日 阿木高
 二〇日 阿木高
 一九日 阿木高
 一八日 阿木高
 一七日 阿木高
 一六日 阿木高
 一五日 阿木高
 一四日 阿木高
 一三日 阿木高
 一二日 阿木高
 一一日 阿木高
 一〇日 阿木高
 九日 阿木高
 八日 阿木高
 七日 阿木高
 六日 阿木高
 五日 阿木高
 四日 阿木高
 三日 阿木高
 二日 阿木高
 一日 阿木高

二〇〇四年(平成十六)一月
 二〇日 長ノ木町
 一九日 長ノ木町
 一八日 長ノ木町
 一七日 長ノ木町
 一六日 長ノ木町
 一五日 長ノ木町
 一四日 長ノ木町
 一三日 長ノ木町
 一二日 長ノ木町
 一一日 長ノ木町
 一〇日 長ノ木町
 九日 長ノ木町
 八日 長ノ木町
 七日 長ノ木町
 六日 長ノ木町
 五日 長ノ木町
 四日 長ノ木町
 三日 長ノ木町
 二日 長ノ木町
 一日 長ノ木町

二〇〇四年(平成十六)一月
 二〇日 宮原
 一九日 宮原
 一八日 宮原
 一七日 宮原
 一六日 宮原
 一五日 宮原
 一四日 宮原
 一三日 宮原
 一二日 宮原
 一一日 宮原
 一〇日 宮原
 九日 宮原
 八日 宮原
 七日 宮原
 六日 宮原
 五日 宮原
 四日 宮原
 三日 宮原
 二日 宮原
 一日 宮原

(敬称略 年齢は数え年)

吉田 八歳
 船尾 八歳
 中尾 八歳
 檜和 八歳
 岡本 八歳
 守本 八歳
 村重 八歳
 杉原 八歳
 岡崎 八歳
 廣崎 八歳
 宮本 八歳
 宮下 八歳
 富枝 八歳
 恒夫 八歳
 百子 八歳
 勇子 八歳
 滋子 八歳
 棟夫 八歳
 子夫 八歳
 正雄 八歳
 阿夫 八歳
 萬夫 八歳
 正夫 八歳
 文治 八歳
 文治 八歳
 文治 八歳

一月
 二〇日 宮原
 一九日 宮原
 一八日 宮原
 一七日 宮原
 一六日 宮原
 一五日 宮原
 一四日 宮原
 一三日 宮原
 一二日 宮原
 一一日 宮原
 一〇日 宮原
 九日 宮原
 八日 宮原
 七日 宮原
 六日 宮原
 五日 宮原
 四日 宮原
 三日 宮原
 二日 宮原
 一日 宮原



現代人の苦悩に寄り添う第3回広島真宗カウンスリング学習会の様子

圓石絹江さん
 明るく活発な方で、長年西教寺蔵本通支坊仏教婦人会副会長を勤められました。お茶、日本舞踊に通じられ、筆者(住職)もお参りに行つてはお抹茶をよばれました。

年末恒例になつた、安芸南組報恩講(ほつ)の子ども集いが、去る十二月二四日、蔵本通支坊で行われました。

報恩講仏の子どもの集い

今年のアトラクションは法眼寺住職と五番町小学校PTAによる影絵「竜の子太郎」でした。母を探し求めて旅をする間にさまざまな苦勞をする太郎ですが、その経



験をもとに、竜が住むと恐れられた湖を、巡り会えた母とともに皆が待ち望む畑にかえるという話です。
 編集者は、影絵がこんなに綺麗なものだとは思つてもいけませんでした。何から何まで全くなの手作りという事で、連日夜遅くまで準備と練習をされたとのこと。スクリーンも前日の晩に



探しもつめた母にようやく出会うことができた感動の場面。

会場にあわせて作るという手の込みよう。心を込めて作った物は、人を感動させるのでしょうか、一六〇名の子供たちは、約三〇分間、誰一人ひともしゃべらずじつと見入っていました。